京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十二年　紀元二千五百六十九年
本紙定價　一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢
大祭日及び日曜日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所　京城新報社

甘茶澁茶

▲仕事の相手
韓人の財様の事が嫌ふ隨て生計の度も低く購買力の微々たる韓國にありては一見並び難き觀あるも、我任韓邦人の共食ひは慨惡せざらんと欲するも得ず畢竟是れ功を近きに收めんとするに由るものにして、如此の輩が幾萬人渡韓し來らばとて韓の開發には何の驗めも是れ無かるべし、韓國開發に志あるものは韓人相手に仕事せざるべからず、韓人に求めて韓人に供するまでならずとも、韓人に得て邦人に與へ邦人に買つて韓人に賣るが如く、少くとも一方は韓人相手なること最も必要事とす、而して爲知らん其の利得する所却て此に多きを。韓は如うしても最本位なるを悟らば殿ぎに過ぐる者あらん

▲官員の一例
官吏の仰ぐべくして利潤の蔭張り擧らざるは人の親しく目視する所、是れ無能の徒の員に備はるを以てのみ、由來官海は情實に結び付けられて人の爲に官を設くるが如きこと珍しからず、予之を南大門停車場に見る、車掌に甲乙丙丁驛の五種の豫備員あり、驛とは執務せざるも驛に在るを云ふ在驛待命の如し、甲乙丙丁の四種は全く驛にも出でず、是れ五日の豫備日あると同様の譯にて一日若くは二日の勤務の後は此の五日を休息に滿つるに同じ、貧澤ふも亦た然れり、聞く所に由れば員數の勝多案じ出せる名義なりと云ふ、此れ元より一小猾擧なりと雖も、一斑は以て全豹を窺ふべく、利潤の擧がらざる偶然にあらざるを知るべし。

▲轍鮒の嘆
一鮒轍に在り、死に瀕して哀を行路の人に請ふ、路人曰く、爾何爲ぞ嘆くや、雲霓空に横ふ、驟雨近きにあらん、爾暫く待て、天にして若し雨ふらずんば予懇に近く江海に伴ふべしと、鮒の曰く、滴水既に涸る、又た幾時をか俟たん、鰭を波浪に振ふ快元より願はずんばあらず、只滴水の生を續ぐなきを奈何せんと、言了て死す、路人にして若し之に一滴の涙を注がば生之に由て獲られ難て以て江河の快を享けしも未だ知るべからず、世之に類する多し一たび過て罪を人に負ふもの、其の漸く改悟して善に向ふの時、終に復た顧みられず、落膽悲愁之を久しうするの後自暴自ら起り自棄蹤で來り、終に復た救ふべからざるの徒となるもの往々にして之れあり、薄志弱行の譏りは元より免かるべからずと雖ども、善に返へりしものをして再び惡に立ち戻らしめて顧みざるしも社會の責めにあらずと謂ふは當らざるに似たらずや、轍鮒の一滴之を輕視すべからずとせば破殘の徒に社會のシムパシーを要するも亦た解し得ん。

雜報

伊藤公の上奏文(下)

帝室經濟會議は公爵三條實美の奏議に基き組織せらる臣亦與かりて此事に參したり又重要諮詢の機關に其員に備ふもの素より其職務を恪まざるべからず東宮補導の顧問に至りては其職任素より容易ならず臣が皇家に於ける素より一毫の難を避くるの念なく又敢て精力を傾盡せずんばあらずと雖も新創政界の叢弊の革新に務め臣微力常に或は及ぶ能はざることを恐る更に宮廷の要職を瀆し重任を辱かしむるの屍位素餐徇に自ら安んずること能はず、臣政友會を冠ら素より黨同伐異を事とせんが爲めにあらず多衆を擁して專制の治を爲さんが爲めにあらず時弊を匡救して憲政に稗益するの外些毫も挾む所なきが故に臣は職任を君側に奉じ以て左右の諮詢に備ふるは臣が黨弊を矯めて國務の進行に適せんとするの心事と素より相悖る所なく從つて累を皇家に及ぼすが如きことなきを信ず然れども陥新に黨を樹て志は矯弊に專らなるも好まざる者は見て以て敵となし從つて黨爭の端を啓めしむることなきを期すべからず是れ臣が朝廷の一視同仁に對して深く懼からざるべからざる所なり陛下寛宏例へ臣が心事を諒とし賜ふ將來政治に從ふて人民をして皇家に對する所以の道を知らしむるに於て臣は極めて其進退を謹まざるべからざる所の思切なり陛下願くは臣が中興の皇謨に對し新に別個の潮權を組織する晩年の苦衷を察せられ茲に悉く宮中の要職を解かれ以て臣が志を成さしめ賜はんことを蓋 陛下の家政に盡すと 陛下の皇政に盡すの點に於ては素より選ふ所なく義に親しく恩眷を蒙り左右の諮詢に備はる今時局の要に鑑み敢へて命を闕下に俟つに於て臣は葵心日に向ふの情愈切なり願くは 陛下之を諒とし賜はんことを臣博文誠恐誠惶頓首々々

明治三十三年九月九日　侯爵　伊藤博文

木越師團長の談(續き)

龍山支局　長野生

中將は、藤公の遭難に關しては「邦家の爲め痛惜に堪へず」とのみ、尚多く語らず、將た、記者が伊院驛燒打に對する傳説及居留地の感想等を述べしに中將は唯呵々大笑しつ、話頭を轉じて

予は歸途釜山より東萊溫泉に立寄りしが、思ふに勝りて諸事整頓せるのみならず、半霄絃歌の聲に夢を破らるゝやうの事なく、實に閑靜にして心地好く感じたり、然れど多忙の身の永く足を留むべくもあらねば、長途の旅塵、拂ひも敢へず歸任したり此に數日、視務の後更に西韓巡視の途に就かんが爲めなり。

西韓は將軍舊知の地、前に日清、後に日露の戰役、共に將軍の馬蹄を印せり今次の行、感慨新にして且つ切なるものあるべし、去るにても將軍蒞任の途は、海路仁川を經て入京せられしならんに、當年敵前上陸の光景を追想するなど、感興更に甚だ深きものありけんをといへば、將軍莞爾として。

然なり、予も聊く思へり、されど着任以來公務多忙にて未だ仁川港を訪ふの遑だになし、西韓巡視の後小閑を得ば、一日仁川に下りて、當時を偲ぶさせん、若し之れをも果し得ずんば、毎年三四月の交、一度歸朝するの定めあるに依り、其の歸任の途海路を取り、豐島沖に於て露艦コレーツが吾が運送船に向つて試みたる惡戯の跡を鷗に問ひ、更に仁川港に於ける敵前上陸の苦衷を追想して忙中の閑を樂しみたしなど思ひ居れり、……今次の行咸鏡北道に於て曾て日露戰役の當時、京城居留民總代たりし書記官中井喜太郎氏に會しぬ、氏は共に懷舊談を試みしが時の力は往時を色彩して、人をして云ひ知れぬ感興を催さしむるものぞ……

記者は五分間の面會を求めしに、十五分或は二十分も過しつらん、心無くも無禮なりしを謝して辭して營門を出づれば江畔の風氣稍く秋霜地に遍く、轉た心身の淨く胖かなるを覺ゆ(完)



第二十七席

伯山改　神田松鯉口演

さて久壽三年三月廿七日保元と改元あり其七月二日一院(鳥羽上皇)崩去し給ひました、上皇の崩去と同時に先帝崇德上皇は兵を擧げさせ給ふ御謀反の御企があつたのでございます、此時關白藤原忠實の子に忠通、頼長と云へる兄弟あつて、此二人が關白の位を爭つたのでございます、長兄忠通は寛厚の長者にして詩文和歌を好くし、和歌の方に於ては人麿の上にありとまで稱はれ又書に於ても法性寺流と云ふ一派を開らいたくらいでございます、然るに弟の頼長は凶險殘忍にして兄とはまるで反對の性質であります、所が父忠實は弟の頼長を愛して兄を疎ぜられます、白河法皇は忠通を關白となし給ひしが鳥羽上皇は頼長を擧げて内覽の職ご云へる大切なる役目を授け給ふ、頼長は兄の文章和歌に長ずるを末技なりとし之れを罵り辱しめ甚しきは其邸宅に火を放ちしこともあり、暴横專權なるが故に世人之れを惡左府と呼びまする然るに近衞帝は頗る頼長を嫌らひ給ひ、後白河天皇も又之れを嫌らひ給ふて頼長の内覽職を止め給ひしに依つて、頼長は憤懣遣る方なく遂に崇德上皇に御謀反を勸め奉つた、故に保元の亂は崇德上皇後白河天皇の御兄弟が皇位を爭ひ給ふたのと、忠通頼長兄弟の權力爭ひとの二つが合併したのでございます

さて崇德上皇は鳥羽法皇の崩御し給ひしにより其宮に至り給ふに、遺詔なりとて入れ給はず遂に後白河天皇の立ち給ひしを見て憤りに堪へ難く、愈々兵を擧げ給はんと密々に頼長と其計畫を行はれました頼長は少監物藤原光貞と云へる者を已れの手下となし、此者に諸所の武士を訪はせて上皇へ御味方致すべき旨、說いて廻はされた、匿すも現はれ易き道理で此噂がパッと立ちまして、上皇御謀反のことが朝廷の御耳へも這入つたから少納言信西は關白藤原忠通と相談の上、爲義の嫡男下野守義朝に仰せて光貞を捕へさせ段々と訊問致しますと遂に新院(崇德上皇)の御謀反のこと殘らず白狀致したので一同も今更の如く打驚き、直ちに多くの武士を呼集め給ふ、先きに鳥羽法皇崩去の時豫め今日の場合あるを思召され、萬一の場合には召せよと源義朝、源頼政以下十人の名を書して置かれたので、直ちに此人々を御召になつた、然るに平清盛の名は此御遺言狀のうちに書いてありません、是れは清盛の妻は新院の御子重仁親王の乳母でありますゆゑ、定めし新院の方へ御味方いたすならんとの思召しだからであります、然るに美福門院の仰せらるゝには「假令忠盛、清盛以下新院に緣故ありとはいへ當方に於て恩賞を厚くすれば參らぬことはあるまい」と近臣をして招き給ふ、清盛は一も二もなく參內致しました、是れにて禁裏の方は義朝、清盛頼政以下堂々たる武士が悉く御味方致したので御坐います

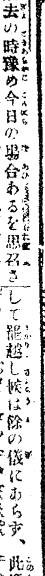
新院崇德上皇の方に於かせられても、大々御手を廻はされ武士を召されましたけれども既に禁裏の方に機先を制せられて大方の武士は、皆禁裏の方へと御味方した後であります、其時家來郎黨の多きこと第一なりと云ふ源氏の嫡流義朝は最早內裏へ召されたと聞こし召しいたく落膽遊ばされましたが、義朝の父爲義は尚は家に在りとのことに右京太夫敎長と云へる者を六條堀河の館へと遣はされた

爲「是れは／＼敎長殿へ何の御用にて候や、早速に伺ひたいものでござる」老人の癖として氣が短かい

敎「オヽ今日拙者新院の御使として罷越し候は餘の儀にあらず、此度內裏との合戦に是非御貴殿新院へ御味方あるやうとのことにて、[illegible]る儀でござる、願くは[illegible]へ御出の程願はしう存ず[illegible]

[illegible]儀にし候、賢は拙者嫡男[illegible]を蒙つて內裏へ馳參し[illegible]老いて頭氣もなく候程に[illegible]兒しを蒙りたく平に辭退[illegible]

イヤ左様のこともあらん[illegible]り兇れ／＼も御命あり、[illegible]內裏へ參つたればとて、[illegible]深山にて男子の成人致し[illegible]人はあり、況して御貴殿[illegible]て朝敵を平らげられし[illegible]びたりとて漢の馬伏將軍の故事も[illegible]に建ー給ふに及ばん、御子息達を御引率の上、新院へ忠義を盡されたいのでござる」



京城新報

平調に復せ

伊藤公の兇手に殪るゝを聞くや世は擧げて混沌狼狽を極め、殆ど其の爲す所を知らざるもの丶如し。天下の偉人伊藤公の死は、余輩も亦た等しく惜む所にして、凶報の瑧るや、初めは此れが爲めに心驚き、二たびにして公を悼み、三たびにして公を弔ひしと雖ども、未だ曾て身を忘れ業を廢し務めを荒びて措く所を失ふが如きに至らず余輩が所謂悲んで傷らざる所以のものは、公を愛しむの甚だ厚からざるが故にあらずして、公の生死が直に世の消長を來たすに非らざるを知ればなり。公は天下の偉人なりと雖ども、天下は公の天下にあらず。公は既に耄者の域に入て唯僅に古物骨董の値を存せしのみ、懸くる所の床間應擧の軸たるに過ぎざりしなり。家にして珍寶を藏し床にして名畫を掲ぐる、元より無からんに及くことなしと雖ども、是れ无きが故にして生計に不如意を生ずるの謂なし。此の兇變の噂は兇漢の放てる手銃の響が哈爾賓の曠漠たる野原に擴ごり鬱乎美しき林の彼方に消ぬ失せたる頃には、漸らぎ行くべかりしものを、何事ぞ、我内地に於ては一大事變の沸き出でたらん如くに愕き、藤公の死は艦て日本に大波瀾を起し一大缺陥を生ずるが如くに騷ぎ、上下を擧げて己れを忘れ、業を廢し右往左往、徒らに感情にのみ是れ走り、理性を失ひて其狀恰も公の從者が茫然自失、爲す所を忘れ見苦るしき振舞を演じたると一般の態度を執るが如きに至れるは惡褻も亦太だしく、余輩は寧ろ憐憫の情に堪へざるなり。此狀を爲すもの我韓國諸官廳の官吏に於て殊に其の酷だしきを見る民間の漸く靜まり來らんとする今日に於て、尙は事務を執らず、政務を見ず渦着擬議徒らに今後の成り行きを愁へ恰も親を亡ひたる赤兒の如き觀あるは甚以て心得難し。公欲んば日本が治まらざるにはあらじ、公微くんば韓國が料理し得られざるにもあらじ。公の死は唯公の死たるのみ。然るを夫れ見苦るしくも周章狼狽日本又た人なきが如くに騷ぐ。余輩は寧ろ內は國政を荒敗し、外は列國の嗤笑を招かんを是れ虞るゝなり。英國の南阿と戰ふや、政治に行政に、植民に經濟に、宗敎に敎育に、一頭の手緩みを見せざりしにあらずや。伊藤公の生前は重きを日本に致すとするも、公の外又た人なきを思はじむるが如きは、策の得たるものにはあらじ、況や韓國の事之を料理するに其の道あり、道に當るに其の人あり、官吏の徒心を平都に復し、爾は爾の職務を勵み、職務の荒敗は艱て却て韓國料理を過まるを悟るべく、諸般周章は唯其れ一時に止め直ちに平調に返つて、靜に其の執る所を務め、其の成り行く所を察するは、識者の應に執るべきの途ならずや。

東京電報

▲首相の元帥招待　來る十二日桂首相は午後七時より永田町の官邸にキッチナー元帥を主賓として英國大使マグドナルド氏山縣大山伊東の各元帥並に各大臣陸海將校英大使館員五十餘名を招待晩餐會を開くと（九日夜着）

▲觀菊御宴の御催　聖上皇后兩陛下には來る十五日赤坂御殿に於て觀菊御宴を催しキッチナー元帥を初め觀戰外國武官一同に陪觀仰付らるゝ由なりと承はる（同上）

▲大演習と閱兵式　大演習終了本日閱兵式行はれ無前の盛況を呈したり（十日着）

▲茶業組合の大會　農商務省は本邦製茶の海外貿易發達を計る爲め全國茶業組合中央會に特別議員制を設け貴族院議員伊藤長次郎氏以下八氏を特別議員に囑託し尙は來廿七日同省に於て臨時全國茶業組合大會を開催すべし（同上）

▲元帥の擊劍觀覽　大演習外國武官休憩場に於て明十一日本邦武士道の真髓たる擊劍試合をキッチナー將軍の觀覽に供すべし（同上）

▲賣淫制度の調查　官制を以て制定せられたる賣淫制度調查會は花柳病の根本的淵源たる密娼狀態の調查に着手すべし（同上）

歐州電報

▲獨政府の大企畫　獨逸政府は膠洲灣を起點とし清國西藏阿富汗斯坦南波斯を經てマグダット鐵道に聯結する大幹鐵道を新設せん計畫ありとの由にて露國は著しき憂慮を以て之に注意しつゝあり（九日）

▲露國と齊浦鐵道　露國藏相ココフオフ氏極東視察の結果露國が豫て來希望する齊々哈爾、暉春浦鹽間の鐵道敷設に關し詳細なる調查を遂げたるを以て藏相露都歸着の上は該鐵道問題は一層具體的に計畫せらるゝならんと期待せらる（同上）

▲クリートの急迫　クリート島問題は頗る急迫に瀕し其解決は頗る重視せらる（同上）

東京電報

▲太子補育總裁　韓太子補育總裁は末松子に決定す（十日）

▲軍事視察の訪問　歐米軍事視察の爲め漫遊中の日本陸軍武官の一行は十日間の豫定を以て露國莫斯科、彼得堡を訪問すべし（同上）

▲飛行家の大成功　飛行家ボラン氏は英國センリー州ハレタウンハークに於て九百七十七呎の高所に飛翔し世界のレコードを破れり

▲亞弗利加と英獨　デルンベルヒ氏は倫敦阿弗利加協會に於て阿弗利加に於ける英獨の利害は共通なりと演說したり（同上）

▲東亞美術展覽會　ライン河畔なるキヨロン市に於て東亞美術展覽會を開催せり（同上）

浦鹽電報

▲浦鹽の韓人增加　哈爾賓に於ける伊藤公の兇變後韓人多數浦鹽斯德に來れり（十日着）

北京電報

▲西太后の國葬光景　西太后の葬儀は九日擧行せられたるが二中隊の儀仗兵先驅し攝政王殿下初め各大臣各國大使公使何れも奉送市民は一般に弔意を表し頗る嚴肅壯大に擧式せられたり（十日）

▲清國護境兵增加　清國政府は今回貝加爾方面にまた五千の兵士を駐屯せしめたり（同上）

雜報

▲統監邸に大臣參集　本日午後一時より李總理大臣以下朴內部李學部高度支部趙農部閔宮內の各大臣及び各次官統監邸に參集し趙農相は伊藤公葬儀の模樣等を物語り別に政務を議せず午後二時半散會したり

▲弔慰金の支出可決　韓廷は太子太師伊藤博文殿下の遺族に對し弔慰金として十万圓を贈る事に決定し昨日の內閣會議に於て豫算外支出の件可決したり因に伊藤公爵家にては再三辭退したるも遂に受納する事となれりと云ふ

▲韓銀の登記終了　韓國銀行は日本商法の適用を受くる事となり居れるを以て今十日を以て京城區裁判所に於て登記の手續を了し一万圓の登記料を納付したりと

▲勅使一行歸着參內　伊藤公國葬參列の爲め東上せる韓帝御使宮內府大臣閔丙奭の一行は昨夜歸着し直ちに參內拜謁を乞ひ委細奉答せるが韓皇には殊の外御待ち遠ほしげに遊ばされ日本上下の意向を下問せられて閔宮相の無事歸着を意外に思召し殆んど一喜一憂の御有樣なりしと承はる

●春川警察署落成式　[illegible]江原道春川警察署は…落成式を催ふし畢竟の秋期運動會を擧行すと…理として齋藤警視は同落成式に臨む爲め今十日午前南大門發出張したり

▲韓銀と支店所在　韓國銀行は愈々來る廿二日より業務を開始する筈なるが同日を以て開始すべき各支店出張所は左記十三箇所なり

▲支店　平壤、仁川、元山

▲出張所　鎭南浦、大邱、馬山、木浦、群山、咸興、鏡城、開城、安東縣、城津

因に前記の內大邱は支店となすべしとの議あるも未だ決定せず又釜山は當分支店を設置せざる方針なり

▲藏相暗殺の陰謀　ハルビンより或筋に達したる電報によれば哈爾賓より浦鹽に至る間の鐵路沿線にて露國藏相ココフツォフ氏暗殺の陰謀發覺せられたるが右は伊公兇變に刺激せられたる同國虛無黨員の企てにて鐵道に爆裂彈を伏せて藏相の乘車を顚覆破壞せんと聞くも戰慄すべき計畫なりしが幸に事前に發覺せられたるは何よりにて犯人は一も檢擧せられず目下嚴重に搜索中なりと云ふ

●電鐵引込に付陳情　日韓瓦斯會社の赤門前電車軌道引込に就き當局者は危險を慮り未だ公然たる許可を與へざる由なるが夫に就き日本人商業會議所は此程來協議を凝し左の理由を以て內部初め警視廳外關係官衙に向ひ昨九日附を以て各關陳情書を提出したり而して其理由とする處は（第一）電鐵引込によりて受くべき利益は運賃の低廉と迅速の便を得ると同時本町通を往來する荷馬車の數を減し交通の安全を助くる事（第二）貨物運賃の低減は獨り商人の利益のみならず一般物價を低廉ならしめ一般需用者を利する事（第三）は電氣鐵道敷設には赤門通は道幅狹に過ぐるの觀あるも同街狹隘部分のみは緩行し且つ所々に監視人を附し充分の注意をなすべし云々

●展覽會と各校成績　義洞小學校に於て成績品展覽會を催ふしたるは既報の如くなるが開會三日間雨天にも拘はらず參觀者千數百名を算し頗る盛會なりしが中にあつて高等女學校生等の手藝品、工業傳習所の製作物尤も喝采を博し師範學校、民團所屬小學校成績之に次ぎ何れも好評なりき

●韓人地方團体取締　各地韓人間に種々の名稱を附したる公共團体若くは民會の如きを組織せる者多きも統監政治の下に於ては未だ法律上公共團体の存在なきを以て勿論彼等同志中に強制力若くは徵稅の權利を認めず只彼等同志中に於ける研究は自然に放任する範圍にて之を取締る方針也

●水道給水規則發布　內部は本日部令を以て仁川、平壤に供給を開始せる水道給水規則を發布せり而して給水を分ちて左の五種と爲す

一、專用給水　二、私設共用給水
三、消火用給水　四、船舶用給水
五、公設共用給水

●村上事務官出張　村上宮內府事務官は昨日仁川出港信濃川丸にて群山へ

●經濟研究會の流會　仁川經濟研究會は昨日開會の豫定なりしも出席會員半數に滿たざりし爲め流會となり更らに來る十二日午後六時より開會することゝなりたるが研究事項は築港問題其他重要案件のみなりと

▲岩下清周氏

目下來遊中なる大阪北濱銀行頭取たる岩下清周氏は自から誠堂と號して居る世間或はひ彼の橫着者が誠堂も凄まじいと言ふものもあるかも知らぬが假に氏にして橫着者であるにしたところが誠堂と號するに何の不思議があらう兎角言ふ奴が寧ろ氣の毒だ元來橫着などいふのはその人間を客觀しての評で本人は所謂橫着を決して橫着と思うて居ない尤も斯うしたら橫着と言はれやう彼うしたら何とか言はれやうかと左顧右眄するやうな人間なら自信のない人間で到底機先を制して仕事をする等は思も寄らぬことだて岩下氏の仕事振を觀ると機敏即ち機先を制するといふ行口が多い隨つて機先を制される奴は仕事で太刀打が出來ないところから彼此陰口を利くこともないとも限らぬ而も機敏な頭を有つて居る氏のことから他人の批評に鑑みて成程これは良くないと氣が附たら必ずや悛むるに憚るまいと思ふ万一惡いと氣が附き尙且我を通さうといふやうなら氏の誠堂なる號はてゝに寄にならざるを得ない譯だ氏常に曰く「大臣も人なり我も人なり誰でも大臣にすれば大臣らしくなるよ」と何だか思道のない人物のやうにも思はれるが或時或人が或仕事を取調べるために東西奔走百方苦心したが要頭を得ないところがその苦心とうの熱心とを見たる岩下氏が夜陰にも拘らず車を飛して取調べて遣り態々當人の許へ來て取調の結果を告たことがある、で岩下氏は相手によつて鬼にもなり佛にもなる人だ而もこの一例尙且その誠堂なる號を欺かないものではあるまいか氏が曾て數名の知人を宅へ招いて御馳走するのに客に各自の酒量を訊ね誰は二合誰は三合と割附て酒を出したこともある、これもまた駈引拔の誠的動作だ誰か氏の誠堂の號を不似合と言ふものぞ

●新義州の土地競賣　新義州民團に於ては今回其所有地の同地常盤町一丁目乃至九丁目、同櫻町一二丁目榮町六七丁目三ヶ所坪數五千七百卅二坪を十一月二十日午後二時より同民團役所にて競賣をなす由なるが元來同土地は元軍用地なりしを同民團にて興業銀行より起債し拂下を受けたるものにて同地鴨綠江架橋工事開始以來漸次發展の步武を進め內外人士の矚目する所となりしより時勢に鑑み賣却することゝなりたるものにて賣却金を以て民團債を償却し殘餘を民團の基本金に組入るゝ筈にて同地の將來が有望なるとは多言を要せざる次第なれば競賣は多大の成功を以て執行せらるべき見込なりと尙同地民長月成勳氏は同地の發展上諸地方の放資を望むを以て夫々各地に通知し競賣の參加を希望したりと

●一銀仁川支店引繼　韓國銀行仁川支店は來る廿一日より三日間第一銀行支店より引繼を受け同廿四日より開業の運びとなりたれば來る廿日兩銀行連署にて一般預金主及び債權者に對し債權の讓渡を通知すべしと

●仁川の學士會開催　京龍仁學士會は一昨日午後八時より仁川淺岡に於て高木副理事官及び村上醫學士等の送迎會を開催したるが出席者廿三名に及び頗る盛會なりしと云ふ

●三警視上京と訓示　大邱警察署長是澤警視、咸鏡南道警察部長本木警視、咸鏡北道警察部長陣警視の三氏は今十日赴任の途次入京し松井警務局長より一場の訓示を受けたり

●各道郡守缺員補充　既報各道府尹郡守缺員は四十名なるが昨日迄にそれぞれ任命配置を終り目下は僅に一二名の缺員あるのみなりと

●通譯主事の合格者　此程內部に於て通譯主事の採用試驗を行ひ二十餘名の合格者を得たるが右は何れも一兩日中各道に配布する筈なり

●韓銀監理官の任命　韓國銀行監理官は度支部農工銀行課長書記官藤原正文氏に決定し十月二十九日付にて昨九日辭令を交付したりと

●大韓醫院長の歸京　菊地大韓醫院長は一昨八日午后八時十分南大門着列車にて歸京せられたりと

●木內次官北韓視察　木內農商工部次官は不日弘濟號に搭乘し北韓視察の途に就く筈なりと云ふ

●鍋島外務部長後任　今十日附を以て統監府書記官小松綠氏は外務部長代理に任命せられたりと

龍山の逐鹿界（愈々明日か關ヶ原）

龍山居留民團議員の總撰擧は愈々明十一日を以て執行せらる然れば今宵予市民は深き熟慮を以て確乎たる決心を爲すべきの秋なる、依つて本紙は有權者の參考に供せんが爲めに玆に候補者の姓名を列記し併せて逐鹿界の現狀及び今日に瑧れる經過を記述すべし時々刻々報道せるが如く先づ蹶起して龍山將來の平和と幸福を圖る爲め最も公平にして善良なる議員を選出せんことを庶幾し此の主意を以て居留民の意向を問ひしは野中推弘氏の牽ゐる革新同志會なりとす其推薦せる候補者は左の如し

稻垣甚、阪敬明、林武之進、大村百藏、大森嘉津藏、渡邊與三郎、海津三雄、粂古禮藏、金井喜藏、竹內菊太郎、牛丸友佐、上野政次郎、松本彌三、藤野秀吉、佐藤峰太郎、執行猪太郎（以上十六氏）

同會は之れを以て其目的とせる龍山の平和と幸福の爲め最適任と認め熱心に有權者の勸誘に力め居たりしが其間少數の野心家ありて隱然或は他を推さんとし或は自ら薦めんとするものありしも革新會の体度頗ぶる公明なるのみならず甚だ優勢なるを以て曾て武步堂々馬を中原に進めんとする者なかりしが昨紙所報の如く一昨八日夜一部の有志者料亭玉の江に會合し

莊司章、國井泉、中野伊之七、森芳太郎、竹田又藏、稻垣甚、海津三雄、竹內菊太郎

以上八氏を有志會の名に於て候補者に推薦し昨九日之れを發表して革新會と中原に會し輸贏を一擧に決せんとして奮闘力戰しつゝあり而かも有志會が前記の八氏を推薦したる理由は唯適任者とのみにて其他は未だ社會に知られず爲めに或者は國井、森の兩氏が革新會の豫選に當選せるにも拘はらず其推薦に洩れたる爲め大に兩氏の感情を害したると一部の有志者が兩氏に同情を表して其面目を起さしめんが爲兩氏を推薦したるもの他の六氏は唯斯る際適任者と認めたるならんなどあれども固より信を措くに足らず此外諸說紛々たるも要するに外部よりの推察を以てせば同志會の推せる候補者の或者が公平にして善良なる者にあらずとして若は前記の八氏がより多く善良なりとして多數居留民中より八氏を撰擇せりと見るを得ん果して然らば這も亦公明なりと云ふべし然れども公明必らずしも賢明ならず唯有志會が稻垣、海津、竹內の三氏を撰擇せるは賢明なる措置なりとせん叙上は龍山逐鹿界の現狀及其經過の梗概なるが有志會の川田氏は候補を辭退せりと傳へられ國井氏は森氏と轡を駢べるに於て其宣明せる人物配置策なる自薦の主意に反せりといふべく兩派の人物に至りては今俄に甲乙を判する能はざるも唯莊司氏のみは老齡勇退の機爛熟せる程なりとの說あり併せて市民の參考とす

●鄭雲復氏の歸京　西北學會を代表して伊藤公の國葬に參列したる帝國新聞社長鄭雲復氏は九日夜歸京したり

●國友警視の後任　國友警視の後任警部山本傳五郎氏は今十日着任したり

●太神宮神職任命　仁川大神宮神職は上原堅一氏今回任命せられたりと

●信夫理事官出張　信夫理事官は昨九日天安に出張せしも即日歸任せり

●金谷三男氏來着　天安憲兵分隊附三等軍醫正金谷氏は昨日着京旭旅館投宿

●陣警察部長着京　咸鏡北道警察部長陣軍吉氏は九日入京浦尾旅館に投宿

●藏澄少佐の入京　海軍機關少佐藏澄儀三郎氏昨日入京浦尾旅館へ投宿す

●西和田技師退京　農商務省技師西和田久學氏九日釜山へ向つて出發せり

●水口事務官歸任　大邱財務監督局事務官水口隆三氏昨九日歸任したり

●渡邊警視の出發　江原道警察部長渡邊案夫氏昨日春川へ向つて出發せり

●久治米場長出發　農商工部園藝模範場長久治米邦藏氏昨日鵠島へ向へり

●稻垣大尉の急行　步兵大尉稻垣盛大氏昨日南大門發にて釜山へ急行せり

▲治外法權▼

民團議員の選擧と云へば恐らく龍山程競爭の劇しい處はあるまい尤も之れは新居留地の事とて自然人心が融和爲ないからである、然るに今回の總選擧は意外に平穩にて何等の競爭も起らなかつたが之れはホンの表面のみで一部の策士は土俵際で奇勝を制せんと待ち構へしてゐて一昨日に至り突然數名の新候補者起り盛んに競爭を開始せる樣子だ、吾人は何人が當選しやうと又は落選しやうと更に痛痒を感じないが選擧人は此際慎重の態度を執り目腐れ金の運動費抔に目を呉れず宜敷居留地に取りて有爲の人物を選擧すべしだ中には隨分イカサマの頗附もある樣だから一寸注意して置く▲韓廷より伊藤公遺族に十萬圓の吊慰金を贈ると云ふに對し公爵家に於ては固く辭退したと聞いたが、別項にある如く右吊慰金は愈々支出に可決した樣子だ、公が生前に於て韓廷より太子輔導の酬ひとして三萬圓を送らんとしたるを拒絕したにも拘はらず今公が一韓人の毒手に斃れ而して其遺族が韓廷より多額の吊慰金を受くると云ふ事は當然の如くなれども決して清廉なる公爵家の爲めには本意でなからふ▲伊藤公國葬に參列した韓人連は何れも無事歸京した樣だ、彼等は激昂所を絕頂に達せる日本へ行くのは頗る險呑に思つたであらふが、今日の日本人はヨボの命位を取つて得たりとする者は恐らく一人もあるまい、露國皇太子傷害、李鴻章狙擊時代は既に一世紀前に屬して居るのだ。

●□童父兄の懇親會 來十二日校內普通學校にて父兄懇話會

此程全部竣工したるを以て來る十三日落成式を擧行する筈なるが警務局長代

伊公國葬に參列したる同會副會長洪肯燮氏は明日東京出發歸韓の途に就く由

稲井茂兵衛優（十二）

▲當時壽座に出演する

最初は秘密を守つて居たが遂に包み切れずして『實は妻しが千圓の金を拵へて洋行さした』と白狀した、芝居の方は兎も角夫れが爲め僕は千圓の損害を蒙つた、何時かは邂逅ふだらうとその儘に泣寢入りで濟まし這度は藤澤等の川上派を除き木村(猛)伊井、喜多村、秋月、佐藤等で稲井一座を組織し興行を續けた、東京朝日の胡蝶園、依田、川尻の諸氏から『今後は君の獨り舞臺であるから折角自愛せよ』とか『奮發せよ』とかの意味で度々鞭撻して下さつたので一段の勇氣を鼓舞し藝道を勵むと共に道具等の改良に意を注ぎ、背景を有名な油繪の高橋勝藏に賴み廣瀨新を雇ふて電氣應用を試みた、恐く申すも烏滸がましい樣ですが我國で油繪の背景を用ひたのと舞臺に電氣仕掛けを用ひたのは僕が初めてですよ。

斯う遣うして居る内川上が歸朝すると聞いたので鋭鋒を挫ぐ爲め吾妻座（宮戸座）に旌旗を飜へした、すると川上の子分の藤澤が行つて來たので一座のものは直に取卷き、やれ擲ぐれの叩けのと大騷ぎで頓と要領を得ない、仲に這入つて段々様子を聞くと『僞うか昔の恨みは水に流して元々通り川上一座と合併して貰ひたい』と謝罪に來たのである僕も五月蠅から『出方次第で許さんでもないが這入らうと思ふなら千圓を調へて來い』と言ふと『不日川上が歸朝から其上で何どか辨償の方法を立てる積りだ』といふのでその場は別れた、吾妻座興行の中程に川上が歸朝したから貞奴を初め川上派一座の連中は馬車を仕立て、花々敷新橋に歡迎した、僕を初め秋月、小織、佐藤等吾黨の士は今日こそ川上の息の根を止めずば止まずとの恐ろしい權幕で壯士六十餘人を引連れ棍棒若くは刄物を携へ同じく新橋に待受けた、この殺氣滿々たる光景を見て取つた藤澤は混雜に紛れて竊つと川上と貞奴を金子堅太郎方へ落し馬車には僞者を乘せた、壯士共は知らず『ワイ／＼』と馬車の後を追ふたが化の皮が現れたのでその日はそのまゝ離散した、翌日川上派は淺草の草津で歡迎會の祝宴を張つた、早くもこの事を嗅ぎ付けた壯士連中は忽ち亂入して酒を呑むやら器具を毀すやら打つやら擲ぐるやら亂暴狼藉を極めた、茶屋こそ可い迷惑でさア、僕は漸く鎮めて座敷に通ると主人公の川上夫婦は居ない、悠うしたと問へば『歸つたけれ共萬事は自分が責任を持つから』といふので金泉が仲裁の勞を取り藤澤から手金の五百圓を詐取つて初めて葛藤の局を結んだ（つゞく）

情婦戀さに窃盜

▲敎替させしを怨りて

仁川宮町二丁目の飲食店一二三亭事井上とみ方金庫に所藏の現金二百四十三圓が先月三十日盜難に罹りたりとて其旨仁川署に訴出でしより同署刑事は精密に取調べたるに右金子は元同樓の酌婦たりし貞奴(二一)と云ふを龍山青坡なる飲食店鴨門に身賣りせし七十圓と其他は貸掛金悉皆なりしと判明し尚は右貞奴の色香に夢中となりて繁々通ひ來る岡山生れの船頭佐々木虎吉(二四)と云ふ情夫ありしが貞奴の敎替後は頓と寄り附かず剩へ虎吉は船頭の身分としては不相應にも同夜新町の近江屋呉服店にて縮緬兵兒帶一筋を十七圓にて購ひたるのみならず衣類萬端の仕立方を濱町三丁目のれきくと云ふに頼み今夜の終列車までに間に合ふようと迫き立て其上宮町一丁目の蒲原時計店にて銀側懷中時計を十五圓にて買ひ求め其夜驛然として行衛不明となりたる旨探知せし刑事は職掌柄同人に嫌疑を掛け去る五日龍山へ捜索の爲め赴きたるに前記虎吉は戀しい女の居る鴨門に流連して金錢を湯水の如く費消しつゝあり加之に貞奴には金指環を買ひ與ふる等身分不相應なる金を蕩き散らし居れるにぞ的切り犯人は此奴に相違なかるべしと直に同樓にて取押へ本署に引致して取調べたるに虎吉は自白すらく自分は一二三亭に何にも怨みなけれど命までもと惚れ込みたる愛はしの女を他へ鞍替させしは取りも直さず自分との妹脊の情交を斷ちたるものと云ふべく憎さも憎き事共かなと地團太踏みて怒りしも蓄へなき船頭の身として身代金を調達すべくもあらず兎やせん角やと思ひ煩ひたる末無分別にも此仕義以後は決して惡い事は出來ませぬと深い思入れ宜敷くの傍より贓金受授の廉に依りて引張られし貞奴は貴郎のれ蔭で妾まで這んな處に……と泣言を述ぶれば此方の虎吉は目／これと云ふも皆んな可愛いそなたのあればこそ深くな咎め給ひぞと情話を交ゆる邊りは劇にでもあり相なりしとかや

可憐な吾妻女郎

▲行秋や宿垢冷たき夜具の襟

京城新町第一樓支店に源氏名を吾妻と名乘れる女あり生れは盤の邊ふ播濱にて廿一の女盛り、うきふししげき河竹の流れに身をば沈むる程のもの誰とて幸福多きものやあるべき多くは親同胞の爲ならぬはあらざる此所に說く吾妻女郎の斯く成り果てし徑路も何れは同じ浪華の葭蘆、伊勢の濱荻言古りたるは取り棄てつ行秋や宿垢冷めたき夜具の襟包むに餘る病氣に逐ひ甞めし日の全盛を想ひ浮ぶる涙の露霜と結びて來る雁は同じくなくにも親子連れ我れは泣くにも忍び音の隣りの部屋の痴話口說思ひ余りて然らぬだに破れ勝ちなる夜々の夢本年四月廿日の夜突出されたる其當時は常に職の張り通しなりしも九月中旬より胃脚氣に罹りしよりは勤めも思ふに任せざれば香に寄る蝶の秋風立てゝ双曲屛裡艶語稀れに寄るは樓主の眉根の皺見るに辛くて重るは病朋蕾女郎も樓主の手前氣の毒なりとは思へども思ふ樣には問ひもならず自づと足も遠くなれば疎くなるのが常なる内に變らぬ受持仲居の何某が肉親も及ばぬ心切を賴みの綱や杖柱僅かに此れに慰められて病を押して勤めて居るとか、旅に病む人に泣けとや霜の鐘

賊の部將逮捕

▲五中隊長と自稱す

黃海道平山郡申敬彬(三九)と云ふは以前數十の兇徒を隨へ黃海道に暴威を逞ふしたる稀有の惡漢なるが近來は賊魁李鎭龍の部下に屬し自ら第五中隊長と稱し良民を苦しめつゝありしが去る七日平山分遣所土谷憲兵上等兵は補助員三名を率ひ平山郡西下面照節里の附近を搜査中酒幕に申が潜伏せる事を探知したれば急行逮捕に向ひたる處申も去る者にて逸速くも夫と氣取り逃去せんとする際もあらせず前後を取圍まれ進退谷りしにぞ今は是迄と所持の二十六年式拳銃を連發し極力抵抗したれど遂に力盡て逮捕せられたり其際申は前記拳銃の外現金二百五十六圓五錢を所持せしが多分強奪したる金子なる可く身柄は不日護送し來る筈なり

兇漢 安應七の寫眞

▲各警察署に配付さる

伊藤公を暗殺したる安多黙、安重根事安應七の寫眞旅順より統監府に着したるを以て更に統監府より警視廳を始め各警察署其他連累者檢擧上必要なる各道警察署へ配布したるが右は鐵鎖にて腰邊を縛せられ後手に手錠を箝められて扉い前に直立せるものなるが身にはダブルの黑羅紗服を纒ひ軀幹餘りに大ならず容貌は眉太く双眼光りを帶び鼻下に薄き八字髯を貯へ五分刈頭のやゝ延びたるまゝにて總体に愽味を帶びたる面貌なるが唇を堅く結ひて仰向加減に撮影し居り年齢は二十二三とも傳へられ又三十一二とも傳へられ孰れとも判別せざるが寫眞にては三十一二歲の年配に見受けられたり

●窃盜犯人の檢擧 福井縣生れ岡本鈴嗣(三八)は一定の住所職業なく各處を徘徊して不正行爲を常事の如く心得居る不埒者なるが去る十月廿九日京本町七丁目福森いま方にて縮緬兵子帶三筋を窃取し翌卅日本町六丁目中村質店へ入質して酒色に耽り居たるを炯眼なる南部署長野刑事に探知せられ昨日曙町十一番戶の四杉田定次郎方へ潜伏せしを難なく逮捕し其儘本署へ檢束せられ何餘罪取調中

●狩獵者行衛不明 仁川京町二丁目魚市場居住の原末吉(三二)と云ふが先月廿三日黃海道白川へ狩獵の爲め赴きたる儘行衛不明となりたる由は既報の如くなるが同じく仁川龍岡町三丁目居住の村上由太郎(四三)と云ふは先月十五日韓人通譯を連れて忠淸南道へ狩獵に行きたる儘礫の音沙汰もなく行衛不明となりしかば若しや時節柄暴徒に殺害されしにはあらずやとて一昨日仁川署に搜索願を差出したり

●京城繁榮會發起 泥峴街の有志者相謀り標題の如き會を設け沈衰せる市況に活氣を添へんとて別項廣告欄に見ゆるが如き方法の下に各商店の贊同加入を希望しつゝあり時節柄最も其の當を得たる擧と云ふべし

●火の用心が肝要 本日午前一時頃南大門通三丁目番戶不詳藤村新藏方溫突內より發火大事に至らずして消止む

●遊廓だより 昨夜新町遊廓の嫖客は七十一人散財額三百八十七圓廿三錢

●取消 一昨紙三面揭載『滑稽戀路の蜃屋』なる項中高橋幸太郎が出雲大社の事務員の如く記したるも右は同社事務員にあらずして單に同所へ食客なる旨出雲大社內しけ子なる人より申込されたれば其の點だけを取消す

吉凶鏡

本町五丁目 三一館判斷

十一月十一日舊九月廿九日三碧先勝乙亥たつ三りんぼ△一白●金屬に關する業務には吉金品の紛失畏るべし其外平凡△二黑●新事及稍々重大なる事には多く障害障錯起り易し常事常務に通ず轉醫學事の事差間なし△三碧●人に心中を探らるゝか又は人の心中を探る事あり旅行轉任婚姻集團結社凶△四綠●情に熱し若くは激して永久の損毫又は迷惑を蒙る勿れ衝突爭論愼しむべし△五黃●盜害紛失避く可し建策勵士には良好△六白●衰沈を意味する日新事及改易の事凶尙旅行轉任見合すべし△七赤●家庭內又は交際上に意見の衝突起り易き日なり概して不穩の日なり建築農業には吉△八白●徒勞に歸し了るの日なり金錢取引談判相談効なし△九紫●順進の日大概吉入學門婚姻養子船下し等大に良好 右は概括的判斷なり各人格別に付ては直接に同館へ鑑定を請はる可し

◀平民文庫▶

▲少し事を誇大に言へば彼は法螺吹だと嘲笑する然るに文章で事を叙するには此誇大を咎めぬのみか是を文の活氣として居る、光陰矢の如し、卵大の眼、霹靂雷の如し、なんて考へるそれかしい樣にもある（けの字）●▲僕も蛇足を添へる、惘るゝ事半餉斗り、白髪三千丈、落つる淚は瀧津瀨の一度にドットなぞは振へるものゝ隨一なるべし（小僧）●▲秋寒み雁鳴き渡る夜なの夢に初雄の保通ふ（哲漢士）▲人に使はれる者に人を使ふ心掛けあり人を使ふ者に人に使はれる心掛けがあれば人生の不平の少くとも三分若しくは五分を除却することが出來ると思ふが左樣行かない、が併し夫れが故に却つて此の世が面白いのかも知れない（小哲士）▲明治町の市場が遂に寂滅したのか虎疫の流行が一大動機となつたらしい（通行人）▲僕は買物に行つたら必ず賣手の態度を研究して居る而して京城の商人は土百姓君の言ひし如く概して無愛想で愛想よく叮嚀に言つて呉れるものは少ない更に少ない者は親切な店員だ商店の爲に悲むべき事である（春部）▲はの字君小照礁かに落手せり（係）▲冬季に入つたので此所暫らくは京城の天地はストーブや溫突を焚く煙で蔽はれることになると思よと聊か心細くなる（への字）▲太平町や長谷川町や西小門通りやの淫賣屋の此の頃の寂れ方と云つたらない中の新地とやら云ふのが出來た爲かしら（文爺）▲明治町の通りも大分賑はしくなつて來たが何うも片側町だけに何處となく淋しい樣な氣が致しますね（無名氏）▲左樣併し寄席浪華座とやらが出來れば存外賑はいましようと思ひます（係）

●天氣豫報（自十日午後六時至十一日午後六時）北西風晴溫度降る
九日（華氏）最低溫度三七、七 最高溫度五三、六

各種 洗濯石鹸 専門製造販賣

用途一般

京城... (電話九七三番)

朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●募集 敏腕なる外交員至急入用希望者は直接京城本六消稲新聞社來談あれ

●少年入用 十七八才少年入用 大和町一丁目 啓春堂醫院

小僧入用 大和町一丁目 藤井出張店

●被雇度 年三十二身体強健如何なる勞苦をも不厭相當の勤め口を求む 氏名在社(四六七)

●賣子入用 多少商業に經驗ある女子に限る希望者は本人來談あれ 京城大和町一 日の出橋際藤井出張店

●植字に雇はれたし給料不望 氏名在社(四六八)

●小僧入用 年齢十五六歳にして身元引受人ある者二名至急入用 明治町 日韓印刷會社

●至急求職 確實なる保證人を有する身體強健なる壯年男兒如何なる勤勞にても厭はず至急職を求めたし 氏名在社

●望事務員 相當の教育ある青年至急職を求む 氏名在社(四七三)

●外交員募集 一日一圓以上の收入ある外交員一名至急入用 氏名在社(四七七)

●店員入用 十六七歳にて確實なる保證人有者 龍山京町古田米店(四八〇)

●下婢入用 十四五歳の下婢を求む餘暇には裁縫習字讀書譜生花等女子に必用なる教育を施す 氏名在社(四七九)

物件部

●貸家 南山町二丁目二階建二階温突外八疊外三間井戸附右今月より貸したし家賃面談 氏名在社(五六四)

●電話 未設(不日かゝる分)讓渡したし 氏名在社(四六二)

●貸家 官吏向二、三、六、八疊瓦葺平家一棟湯殿物置附門構有家賃三十圓 氏名在社(四六一)

●醫院讓渡 京城市内有望の地希望の方は至急申込あれ 氏名在社(四六三)

●京城旭町二ノ二階四疊半二間賄付貸たし但可成官吏を望む 氏名在社(四六四)

●電話讓受たし 京城黄金町廿番戸鮮商工部前通り 京城勞働組(四六五)

●本町表通一等地商店向間口二間半家賃廿圓の處持作悲皆四十圓にて讓渡度し希望者は韓路赤帽子號高橋方へ急談

●貸家本町通ト目抜の場所にて貸家あり希望者は來談あれ 氏名在社(四七〇)

●自轉車 英國製コースター付格安に讓渡したし 氏名在社(四七六)

●貸家 南山町二丁目二階建十疊と三疊と別棟二階六疊二間彌井戸物置湯取付家賃面談 氏名在社(四七八)

廣告

入院隨意

内外科

小兒病

梅毒淋病

京城壽町三丁目

高井醫院

電話(三一六)

院長 陸軍軍醫正 高井貞治

瑞西タバン時計會社韓國代理販賣店

米國ウオルサム時計 米國アンソニヤ時計

韓國特約販賣店

獨逸國スカンジヤ自轉車特約販賣店

時計卸商 喜多金光堂本店

仁川本町三丁目 電話七五〇番

時計卸小賣 喜多金光堂支店

京城本町二丁目 電話千十五番

明治廿年七月創立 ●事務所 京城本町二ノ三 電話一〇六〇番

京城代辨店 本町四 山口呉服店 電話九番

資本金 一千萬圓

東京 火災保險株式會社

原料直輸入廉價調製各種木形新着

弊店の特色御注文品を否とに不拘材料は精選し常に精巧の御満足を...地方は御一報次第店員を派し...可仕候

洋ゴム靴 五圓五十錢

アミ上靴 ...

淺ゴム靴 五圓五十錢

東京 北村支店

京城本町一丁目(郵便局前) 店主 磯部廣吉謹

廣告

暖爐各種

煙突取付並ニ煙突掃除大勉强

京城本町五丁目角 電四七一番

馬木勇

龍山下町兵器廠官舍盤入口 電三六四番

馬木支店

吉

綿わた綿ワタ

たやすくうります

ふとん地色々、ふとん調進、太物類、洋反物類

卸問屋

京城明治町一丁目四ツ角

唐川商店

電話六一二番

東京

足袋

正札付大安賣 厘毛引なし安心して買へ升

本店東京

京城大和町一丁目(日の出橋際)

大和屋

藤井出張店

電話二百〇五番

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す牛乳を...此に留意し...

●弊場搾取の牛乳を愛飲せらるゝ御諸君は最も滋養豊富風味佳良の牛乳を飲用し得らるべし

京城本町五丁目(電四七番)

販賣元 松尾文

京城...

搾取場 松尾牧場

辯護士

特許辯理士

京城明治町二丁目(佛國教會前)

岩田仙宗

電話三五四番

漬物

味噌

醬油

製造元

京城本町五丁目

特約販賣 自製

大上商店

和洋酒、精酢、穀物麺類、銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塘辛、日本食鹽各種特約販賣御望に依り商品切手調進仕候

(電話二五一番)

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候

御客樣に對しては叮寧親切を旨とし調理の義は可成從來よりも一層勉强可仕候間倍舊の御引立奉願候

京城南山町四丁目

原金旅館

(電話長一〇七番)

代理店

京城本町... 京城南大門... 新井... 藥房...

根炭 堅炭 堅薪

松薪 松炭 石炭

京城旭町四丁目(電話一九八番)

眞下大吉商店

根炭

堅炭 松炭 石炭

堅薪 松炭

京城漢江通五丁目

直見商店

電話龍山二〇四番

折箱

製造元

京城明治町一丁目

五十番戸

漢城病院下横へ入ル

箱信事

鳥山商店

漢城病院大韓醫院特定御用

純良 牛乳

京城南大門外

荒井牧場

電話一〇五六番

眼科専門

京城本町一丁目憲兵分遣所前

江頭眼科醫院

(電話三三三)

前漢城病院眼科部長

醫學得業士 江頭富雄

●牛乳 純良 消毒 検査済

韓國畜産株式會社

南大門外(電話八八番)

入院隨意

中島醫院

京城壽町三丁目(電話三七八番)

院主 醫學得業士 中島貞信

●●●滋養と牛乳●●●

純良 牛乳

京城東四軒町

岡野牧場

電話壹〇六九番

馬車配達

●●●衛生と消毒●●●

處方調劑の依頼に應ず

京城南大門通三丁目

新井藥房本店

藥劑師 小松禎三

諸官衙御用品調達

和洋紙類

印刷附屬品

印刷インキ

和洋書籍

防腐デシン

穀物食鹽

諸染料類

各學校御用品調達

營業科目

委托販賣

東京 ランバーグ商會代理店

東京 中外アスファルト株式會社代理店

東京 千代田生命保險相互會社代理店

東京 博文館發行書籍特約店

東京 金港堂發行書籍特約店

釜山 韓國鹽合資會社食鹽特約店

藤田合名會社

本社 京城明治町一丁目(電話二番)

出張所 東京... 龍山... 一九...

上等根炭各種

並に無煙炭販賣

京城本町二丁目

林田交換所

(電話六十五番)

會席御料理御一人前

肴四品付酒二本

金六十錢

すき燒其の外應御好

京城竹園町一丁目

遊樂樓

(元三遊樓跡)

京城光化門通

淺田洋服店

店主 大島卑藏

(電話四百十三番)

胃腸消化新劑

澱粉消化 チヤスタリン

蛋白脂消化劑 ゲスチンヂ

錠劑十日分(三十粒入一瓶)一圓二十錢

散劑一オンス入(一瓶)一圓二十錢

錠劑十日分(三十瓶入一瓶)二圓四十錢

散錠一オンス入(一瓶)二圓四十錢

右は最近內地に於て急激の需用を來たしたる名聲嘖々たる世界無比の理想的絕品にして所謂賣藥には無之候

各地有名なる藥店に於て販賣す

●大韓醫院御用藥

韓國一手賣捌元

京城光化門通

大島專藏

蒸 牛乳 消毒

京城大和町一丁目

平山牧場

電話一二三